

全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和4年度全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和4年4月19日（火）に実施された全国学力・学習状況調査について、東浦町の調査結果の概要、及び調査結果を踏まえた改善策をお知らせします。

1. これまでの経過

4月 19日（火）	令和4年度 全国学力・学習状況調査の実施
9月 5日（月）～	個人結果の配布
9月 5日（月）	町内各小中学校にて調査結果の分析と改善策検討
11月 17日（木）	定例教育委員会にて調査結果を踏まえた改善策検討
12月 22日（木）	調査結果の町HP掲載

2. 全国学力・学習状況調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

3. 東浦町対象児童生徒数

- 小学校第6学年児童 453名
- 中学校第3学年生徒 427名

4. 調査内容

(1)教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

それぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

5. 教科に関する調査の結果

○小学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

【算数】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

【理科】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

○中学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県及び全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られた。

【数学】愛知県の平均正答率とほぼ同じ・全国の平均正答率よりやや高い結果が見られた。

【理科】愛知県の平均正答率とほぼ同じ・全国の平均正答率よりやや高い結果が見られた。

本町での(※)よい傾向や課題、結果、及び問題(一例)については以下のとおりです。

(※):全国平均正答率を5%以上、上回るもの(○)と下回るもの(●)

(1) 小学校

○国語

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」「読むこと」に特に課題が見られました。「話すこと・聞くこと」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題(一例)

- ・文章中の下線部を漢字を使って書き直す。(ろくが、はんせい、したしむ)
- ・話し言葉と書き言葉の違いを理解する。
(【話し合いの一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する)
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。
(【話し合いの一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する)

●「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題(一例)

- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。
(書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する)

●「書くこと」に関する問題(一例)

- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。
(【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く)

●「読むこと」に関する問題(一例)

- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。
(「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する)
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像する。
(物語から伝わってくることを考え、文章の中に入る言葉を考える)

○算数

「図形」「変化と関係」、「データの活用」に特に課題が見られました。「数と計算」については、全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「図形」に関する問題(一例)

- ・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。
(示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ)

●「変化と関係」に関する問題(一例)

- ・百分率で表された割合を分数で表すことができる。
(果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す)

●「データの活用」に関する問題(一例)

- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。
(全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ)

○理科

「『粒子』を柱とする領域」「『生命』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」に特に課題が見られました。「『エネルギー』を柱とする領域」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「『粒子』を柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
(凍った水溶液について試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く)

●「『生命』を柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・昆虫の体のつくりを理解している。
(昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ)

●「『地球』を柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる。
(冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ)

(2) 中学校

○国語

「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」については、全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。その他の領域においては、全国の平均正答率とほぼ結果が見られました。

「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」に関する問題(一例)

- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。
(農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える)

○数学

「データの活用」については、全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。その他の領域においては、全国の正答率よりやや高い結果が見られました。

●「データの活用」に関する問題(一例)

- ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。
(データの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ)

○「数と式」に関する問題(一例)

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
(同じ偶数の和である $2n + 2n = 4$ について、 n が 9 のときどのような計算を表しているか書く)

○「関数」に関する問題(一例)

- ・一時関数の変化の割合の意味を理解している。
(変化の割合が 2 である一次関数の関係を表した表を選ぶ)

○理科

全ての領域においては、全国の正答率よりやや高い結果が見られました。

○「『生命』を柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の課程の見通しをもつことができるかどうかを見る。
(実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する)

○「『地球』を柱とする領域」に関する問題(一例)

- ・玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかを見る。
(玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する)

6. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

学習状況(学習意欲・学習方法・学習環境等)について、全国及び愛知県と比較してよい傾向や改善を図りたい項目は以下のとおりです。

(1) よい傾向

- 朝食を毎日食べていた割合が高い。(小学校・中学校)
- 前年度受けた授業で、コンピュータなどの I C T 機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために使用する割合が高い。(中学校)
- 学校に行くのは楽しいと思っている割合が高い。(小学校)
- 友達と協力するのは楽しいと思っている割合が高い。(小学校)
- 人が困っているときは、進んで助けている割合が高い。(小学校)
- 将来の夢や目標を持っている割合が高い。(中学校)
- 今住んでいる地域の行事に参加している割合が高い。(中学校)
- 学習の中で P C ・タブレットなどの I C T 機器を使うのは勉強の役に立つと思っている割合が高い。(小学校・中学校)
- 理科の授業が好きな割合が高い。(小学校)

(2) 改善を図りたい項目

- 毎日、同じぐらいの時間に起きたり寝たりする割合が低い。(小学校・中学校)
- 自分にはよいところがあると思っている割合がやや低い。(小学校・中学校)
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている割合が低い。(小学校・中学校)

- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間が4時間以上の割合が高い。（小学校・中学校）
- 将来の夢や目標を持っている割合が低い。（小学校）
- 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している割合が低い。（中学校）
- 学校に行くのは楽しいと思っている割合が低い。（中学校）
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている割合が低い。（小学校）
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている割合が低い。（小学校・中学校）
- 学校の授業時間以外に、1日当たりの勉強時間が1時間未満の割合が高い。（学習塾や家庭教師を含む）（小学校・中学校）
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える割合が低い。（小学校・中学校）
- 各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したり活動を行っていたりする割合が低い。（小学校・中学校）
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている割合が低い。（小学校）
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めたり、自分が努力すべきことを決めたりして取り組んでいる割合が低い。
（小学校・中学校）
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる割合が低い。（小学校・中学校）
- 国語の勉強が好きであったり、国語の授業の内容がよく分かっていたりする割合が低い。
（小学校・中学校）
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている、自分の考えをそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている割合が低い。（小学校・中学校）
- 算数・数学の勉強が好きな割合が低い。（小学校・中学校）

7. 調査結果を踏まえた改善策

以上の調査結果を踏まえ、東浦町教育委員会では以下の取組を推進します。

(1) 学習意欲の向上、学習習慣の定着を図るために、授業改善を進めます。

<具体的な取組>

- ・ 校内外での職員研修を通して、「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現に向けて共通理解を図り、学習への達成感、満足感を得ることができる授業づくりを進めます。
- ・ 教育活動全体を通して自分の考えを明確にし、それを基にした話し合い・伝え合いの時間を取り入れ、考えを深めたり、広げたりすることができるような授業づくりを進めます。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく実施できる授業づくりを進めます。

(2) 学校、家庭、地域が連携し、望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図る取組を進めます。

<具体的な取組>

- ・ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について連携し、望ましい使用の仕方となるよう情報モラル教室等を利用し、啓発をしていきます。
- ・ 「家庭での会話」時間づくりや「学習」時間づくりを進めるなど、児童生徒が家庭においても主体的に自らの生活習慣や学習について見直すよう、啓発をしていきます。
- ・ ボランティア活動などに参加し、地域との連携を深めることを通して、自らの生き方について深く考えるよう、啓発をしていきます。